

【嫉妬調教】「お前が誰のモノなのか、よく分からせてやる」
～嫉妬に狂った夫の激しい愛の制裁とお仕置き～

サンプル（一部抜粋）

「綺麗な奥様...？
.....そうですね。」

（握りこぶしにぎゅっと力を込めるような小さな音）

「ええ。今後ともよろしく願いいたします。」

（徐々にフェードアウト）

（ホテルのドアの開閉音・鍵をしめる音）

「一体どういうつもりだ？」

（ぎゅっと手首を掴む音）

「俺とのルールを忘れたのか？
俺は何度も何度も言ったはずだ。出来るだけ目立たないようにしろと。」

「こんな胸元のあいた、体形が分かるピッタリとしたドレスを選んだ理由は？」

（数秒沈黙）

「無言...か。
今日のパーティーだけで、何人の男がお前の身体を舐めるように見ていたか...分かっているのか？」

「ごめんなさいって？いきながら謝られてもな。
もっと泣いて喚いて反省するまで許さない。」

（激しく指を動かすぐちゅ音・クンニの音がしばらく続く）

「イってる時にだめって...
お前は俺を怒らせたんだ。
拒否権なんてあるわけないだろ。
俺がお前をどれだけ愛しているかすら、理解できていないんだから。」

（激しいクンニの音・かき回すぐちゅ音・痙攣するわずかな服が擦れる音）

「まだだ.....
もっと、もっと全部ほしい...」